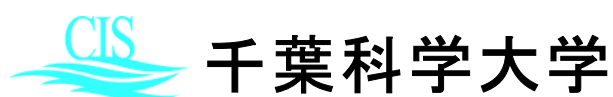


平成22年度 事業報告



「健康で安全・安心な社会」の構築に
貢献できる人材の養成を行う



本学は、平成16年4月に開学し、6年が経過しました。昨年には大学院博士課程が設置認可され、大学としての体裁を整えることができました。

学生のひとりひとりの能力を最大限に伸ばすために教職員が一致団結して教育にあたり、学生の満足度を高められるよう、また地域との関わりを深め、存在感を高められるように努力します。

具体的には、

1. 薬学部と危機管理学部が協力して健康安全リスク危機管理プロジェクトをスタートさせます。
2. 大学基準協会による外部評価を受け、これによって本学の教育体制の一層の充実をはかります。
3. 学生の側に立った教育をして学生の満足度を向上させるようFD活動を強化します。

千葉科学大学 学長 赤木 靖春

教学関係

■博士課程（後期）の設置による大学院の充実

大学院では日本初の危機管理学研究科に博士課程（後期）を設置、また薬学では他大学に先駆け、薬科学研究科博士課程（後期）を設置して、教学面の充実を図りました。

■大学の目的、各研究科、各学部の目的

学園建学の理念に基づき、大学の目的を教育では『健康で安全・安心な社会の構築』に寄与できる人材の育成、研究では『健康で安全・安心な社会の構築』の探求、社会貢献では『地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画』と定め、実施いたしました。

各研究科各専攻においても教育研究上の目的をそれぞれ定め、各学部各学科ではそれぞれ教育目標を設けて、それに向かって実施いたしました。

■薬学科5年次長期実務実習開始

薬剤師養成が6年制になったことに伴い5年次の病院・薬局での長期実習を開始いたしました。4年次の1月にOSCE試験とCBT試験には受験者全員が合格し、関東甲信越で病院実務実習、薬局実務実習を延べ5ヶ月間行いました。

6年制の第2期4年次生も、第5号館（講義・実験棟）2階にあるコンピュータ室でC B T試験対策を、O S C E室と講義室で、O S C E試験対策を行いました。

■航空・輸送安全学科施設設備の充実と特色ある講義の実施

昨年度からスタートした航空・輸送安全学科では実習用セスナ機、自衛隊から貸与のヘリコプター、操縦訓練用シミュレータなど教育研究用施設設備を充実させました。

また前期と後期の科目の中で、(株)ウエザーニューース、(株)小松製作所地雷撤去プロジェクト、J A Lのパイロットなど各界の第一線で活躍する方々を招き、オムニバス形式で30回、危機管理学部の新入生に対して将来への目的意識を持たせる講義を実施いたしました。

■大学基準協会での外部評価の実施

平成21年度に作成した自己点検報告書を、大学基準協会に提出して、外部評価（第三者評価）を受けました。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望もあり、一昨年に引き続き教員免許状更新講習を実施いたしました。

講習科目

必修領域1講座 8月7日～8日（12時間）

「教育の最新事情」

選択領域9講座 8月9日～11日（1日3講座を3日実施）

「理科指導の体験実習講習①地層と構成鉱物の観察」

「薬と人間」

「成績処理に使える統計・役立つ情報」

「銚子特産物のカーボン・フットプリント(CFP) 計算を用いた環境教育プログラムの紹介」

「コミュニケーションの心理学」

「コンピュータ・シミュレーション体験実習」

「防災教育と救急救命」

「学校のリスク・危機管理研究」

「理科指導の体験実習講習②遺伝子研究の現在」

教育・学生支援事業

■学生支援推進プログラム

平成21年度から3年間の計画で採択された、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムへの取組を継続いたしました。取組は以下の6つの柱で構成していますが、昨年度は⑤の銚子周辺企業との連携強化に重点を置き、企業訪問、地元企業との交流会、地元就職希望者への企業説明会・バスツアーなどを実施いたしました。

- ①全学キャリア支援カリキュラムの整備
- ②個別面談指導の強化
- ③就職関連情報提供システムの運用
- ④内定取消等の学生への支援体制整備
- ⑤地元企業との連携強化
- ⑥学内合同企業説明会、企業との情報交換会

■教育・学習方法等改善支援事業の実施

図書館の取り組み「図書館機能の充実—開館時間の延長とWeb利用指導」に対して私立学校等経常費補助金特別補助の教育・学習方法等の改善支援が平成20年度に採択され、開館時間の延長、院生による職員対応時間外の利用相談実施、本の探し方等（初級）から参考文献の見方等（上級）までをWebページによる自習システム作成など着実に成果を上げて、昨年度は3年目のまとめを行うため、継続申請いたしました。

■今年度の教育・学生支援事業への申請

大学生の就業力育成支援事業へは危機管理学部からキャリア関連科目の再編を踏まえて申請し、採択されました。

学科・コース等新設

平成22年度より薬学部、危機管理学部に新たな学科・コースの設置を行いました。

薬学部

平成22年度	平成21年度
生命薬科学科	薬科学科
創薬科学コース	創薬科学コース
化粧品科学コース	化粧品科学コース
動物生命薬科学コース	動物生命薬科学科

危機管理学部

平成22年度	平成21年度
危機管理システム学科	危機管理システム学科
リスクマネジメントコース	リスクマネジメントコース
公務員コース	公務員コース
経済・経営コース	防災・安全学コース
航空・輸送安全学科	
パイロット・整備コース	
車両安全学コース	

■大学院博士課程のスタート

大学院修士課程の上に、薬科学研究科博士課程（後期）薬科学専攻と危機管理学研究科博士課程（後期）危機管理学専攻を設置、入学者を博士の薬科学専攻に3名、博士の危機管理学専攻に1名を迎え、大学院の充実を図りました。

■留学生別科のスタート

本学に留学生別科を設け、日本語能力が充分でない外国人に対して、1年間の日本語教育を行いました。全別科生に日本語能力検定試験を受験させ、2級以上の合格を目指し、大学講義の受講に支障のない学生を育てると同時に、地域との交流を推進いたしました。

平成23年度以降開設に向けて

■動物関係の学科新設と学科改組

薬学部の生命薬科学科動物生命薬科学コースと危機管理学部の動物・環境システム学科動物学コースを基礎とする、動物危機管理学科と動物・環境システム学科を基礎とする環境危機管理学科の2学科を危機管理学部へ平成24年度に開設するため、平成23年4月に設置届出書を提出いたします。

それに伴い、動物・環境システム学科を募集停止し、生命薬科学科についても学科内容、カリキュラムが変更になります。

また、薬学部薬学科（修業年限6年）が平成24年3月に第1期生を送り出すことに伴い、薬学研究科大学院博士課程（修業年限4年）を平成24年度から開設するため平成23年4月に設置届出書を提出いたします。なお、既設の薬科学研究科は、薬学研究科に名称変更します。

就職活動支援

学生に対する就職支援、キャリア支援、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などを行います。特に、地元出身学生の増加に合わせて、地元企業に重点を置いて開拓を推進いたしました。

薬学科6年制の学生は5年次ですが、6年次での就職活動をスムーズに行えるようにガイダンスを行いました。また、平成21年度採択された学生支援推進プログラムについて、平成22年度も継続実施いたしました。

■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知ってもらうための業界セミナーを学内で開催します。また、3年次生（薬学科は5年次

生) 全員との個人面談を実施し、個別指導を行いました。

■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏季休暇中に1～2週間の就業体験を実施いたしました。

■合同企業説明会

採用担当者と本学学生がブース別に面談する合同企業説明会を3回(12月、1月、2月)学内で開催いたしました。

■キャリア支援

キャリア支援講座やビジネスマナー講座などを開講し、自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に指導いたしました。

■公務員試験対策

入門講座、ベーシック講座(前期)、スタンダード講座(後期)、直前対策講座を開講します。国家Ⅱ種・地方上級レベル対応のeラーニングシステムを導入し、インターネットを利用した試験対策を支援し、業者主催模擬試験を学内で実施いたしました。

■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者、秘書検定、潜水士などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施いたしました。また、30種類以上の資格取得に対応するeラーニングシステムを導入いたしました。

■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行い、特に銚子市周辺の地元企業の開拓に努めました。また、加計グループ5大学1短大共催の就職懇談会(東京、大阪、広島)を開催いたしました。

学生募集

日本初の危機管理学部を擁することを強みに、危機管理ができる薬学部をアピール、公務員など就職に強い大学も強調して、学生募集を行ないました。

■地元銚子市をはじめ、千葉県、茨城県の通学圏の高校に対する広報活動の強化

通学圏(60km圏内)の高校については、昨年同様に最重点校と位置づけ、高校訪問・出張講義・オープンキャンパス動員等の活動をより強化し、安定した入学者確保に努めます。そのために、千葉県、茨城県に支局長を1名ずつ増員し、お互いの学校行事に教職員が参加し合える密接な関係を築くように努力いたしました。

■教育提携校締結の拡大と関係強化

現在13校と協定を結んでおりますが、出張講義、オープンキャンパスへの動員要請は勿論、関係強化として千葉科学大学杯(女子バレーボール大会)の開催、参加要請を行い、PTA総会等への参加の働きかけも行なっておりまいます。また、入学式・卒業式などお互いの学校行事に教職員が参加し合える体制を作ることを継続しております。

■出張講義の拡大と内容の充実

進学説明会と並び、学外において高校生と直接話ができる出張講義は、年々実施回数を増やしています。今後は話す内容を教員と検討し、「高校生に夢を持たせる」内容で、多くの高校生に伝えていきました。

■E-広報の充実

アクセス数が年々増加傾向にある本学ホームページの内容をさらに充実するとともに、各業者の主力なWeb企画と連動することで、様々な受験者層に働きかけ、資料請求者の拡大を図りました。

■オープンキャンパスの充実

21年度は開学以来最高の動員数となりましたが、入学者に反映されませんでした。この反省を踏まえ、参加した高校生に「見せる」内容について、より充実していきたいと考え、「この大学で、この研究室で、こんな研究してみたい」という夢を持たせるための内容を検討しました。多くの高校生に見せたり、参加する内容で実施しました結果、昨年度を上回る参加者がありました。

■合格者の歩留り強化

合格者に各学科の礼状を送ると同時に、冊子（入学ガイド）で入学説明会の実施を案内し、親密な関係づくりによる入学者増をはかりました。

■その他

1) 地元との連携

市役所等とのタイアップにより、市民の本学に対する理解を深めていくとともに、併せて地域貢献にも努めました。

市民講座、サテライト講座の開催により、保護者、市民へ本学をアピールいたしました。

2) 常時学内を見学できる体制の整備

研究室前廊下に研究内容を表したパネルを設置して、いつ誰が来てもアピールできるように整備いたしました。

3) 受験生との親密な関係の構築

在学生と教員とで、学生の母校を訪問し、受験生に親近感を持たせることで、受験者数増をはかりました。

4) 塾へのアプローチ強化

近年増加している個別指導塾の中には、大手予備校と比べるとAO入試の指導に重点を置く塾も少なくないため、専願受験者確保のために働きかけを強化いたしました。

5) 各訪問高校別カルテ作成

高校訪問者の変更があっても各高校のデータが引き継がれるように各県別各訪問高校別にカルテを作成いたしました。

6) その他

各高校訪問担当者に各県ごとに目標入学者数（ノルマ）を設定して、入学者の確保に努めました。また、訪問先に岡山理科大学卒の教員がいる場合は必ず会いに行き、資料請求者にも会いに行くなどの広報活動を行ないました。

人事関係

■学長、副学長、学部長改選

平成21年度末任期満了に伴い、学長、副学長、学部長の改選が行われ、前副学長の赤木靖春氏が第2代学長に就任いたしました。また、副学長には教育研究担当として宮林正恭氏が、薬学部長・薬科学研究科長には浜名洋氏が、危機管理学部長・危機管理学研究科長には藤谷登氏が再任されました。今回新たに学長補佐が置かれ、木島孝夫氏が、就任されました。

■事務組織改編

平成22年度より、企画室を庶務部に統合して企画課に改編いたしました。

主な行事

4月 6日	在学生オリエンテーション
4月 7日	入学宣誓式
5月30日	オープンキャンパス
7月24日 ～25日	オープンキャンパス
7月29日 ～8月11日	前期定期試験
8月 7日 ～11日	教員免許状更新講習会
8月28日	オープンキャンパス
9月18日	教育進路懇談会（地方）
9月25日	教育進路懇談会（本学）
9月24日	後期オリエンテーション
10月 9日	オープンキャンパス
11月20日 ～ 21日	青澄祭（大学祭）
12月15日	合同企業説明会
1月26日 ～2月 8日	後期定期試験
3月25日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成22年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数		秋期入学 ※	
			留学生	社会人		留学生	社会人		
大学院	薬科学研究科(博士)	5	3		5	3			
	薬科学研究科(修士)	10	8		20	26	1		
	危機管理学研究科(博士)	3	1		3	1			
	危機管理学研究科(修士)	5	11	1	10	17	4		
	大学院 計	23	23	1	0	38	47	5	0
薬学部	薬学科(6年制)	120	101	4	1	785	612	9	7
	薬科学科 (募集停止)		—	—	—	130	76	2	
	動物生命薬科学科 (募集停止)		—	—	—	80	52		
	生命薬科学科	50	35	3		50	35	3	
	計	170	136	7	1	1,045	775	14	7
危機管理部	防災システム学科 (募集停止)		—	—	—	130	65	16	
	環境安全システム学科 (募集停止)		—	—	—	170	145	16	
	危機管理システム学科	100	101	35		345	338	91	
	動物・環境システム学科	60	40	7		120	88	16	
	医療危機管理学科	80	86	1		180	166	4	
	航空・輸送安全学科	40	18	8		40	18	8	
	計	280	245	51	0	985	820	151	0
学部 計	450	381	58	1	2,030	1,595	165	7	
総合計		473	404	59	1	2,068	1,642	170	7
留学生別科		40	39	39		40	39	39	

(単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成22年度)

区分	修了者・ 卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	21	18	16	89%	3	1	1	1
学部	107	144	112	78%	27	0	0	5

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	東京消防庁、千葉消防局、警視庁、航空自衛隊(幹部候補生)、長野県庁、佐野市役所、日本ペイント(株)、東邦薬品(株)、白鳥製薬(株)、筑波大学付 他
-------	---

■教職員数

(平成22年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	1	53	24	17	8	5	1	110	51

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

科目	年度	22年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		2,606,722	2,438,930
補助金収入		386,085	342,004
その他収入		76,709	79,083
帰属収入合計		3,069,516	2,860,017
基本金組入額合計		△ 295,907	△ 64,005
消費収入の部合計		2,773,609	2,796,012
人件費		1,825,436	1,807,073
教育研究経費		1,267,752	1,171,046
管理経費		368,722	385,406
その他支出		4,346	770
消費支出の部合計		3,466,256	3,364,295

■施設設備整備 (抜粋)

(単位:千円)

事業名	金額
格納庫新築工事 317㎡ ※航空・輸送安全学科の実習及び航空機の格納施設として使用	51,219
駐車場整備工事 9,038㎡ ※銚子市から賃貸したマリナーキャンパス前用地を舗装して学生駐車場として整備	38,500
学内ネットワークシステムリプレイス	35,750
学内ネットワークシステムリプレイス設定作業	13,638
学内ネットワークシステムリプレイス保守料	19,612

(単位:千円)

事業名	金額
実習用セスナ機 (中古)	5,170
航空機操縦訓練用シミュレータ	2,993
探索用マイクロ스코ープ	3,570
航空・輸送安全学科創設図書	1,100
高機能患者シミュレータ	8,264